

とんぐい村の こみ・すく通信

令和4年9月12日発行 令和4年度 第12号

更別村コミュニティ・スクール委員会事務局(教育委員会)

みんなの学校応援団の活動を紹介<その1> JAさらべつで地元農業の規模の大きさを知る

8月24日、更別小学校3年生が社会科で、学校応援団であるJAさらべつのご協力をいただき、農協倉庫の見学等を行いました。各倉庫に行き、JAさらべつ農産部長の鈴木さんから説明いただきました。



ジャガイモの倉庫

機械でイモが選別され、自動でダンボールに詰められる。

キャベツの倉庫

大きな冷蔵庫の中にあるようです。



小麦が積み上げられた倉庫

「ピラミッドみたい。」

豆の倉庫

たくさんの袋に詰められた大豆、金時など。
 ※金時、手亡の耕作面積は日本一



子どもたちは、普段見たことがない倉庫の大きさと、そこに収納されている作物の量に「すごい!」とびっくりしていました。鈴木さんのお話と見学から、農協の仕事の概要と更別村の農業の規模の大きさを実感できる学習になりました。

みんなが安心して暮らせる村に 認知症サポーター講座から

更別中央中1年生が8月24日に、保健福祉課保健師の佐藤さん、社会福祉士の佐々木さんにご来校いただき、認知証サポーター講座を受けました。

〇×クイズをして認知症のことを主体的に理解し、ビデオを見る中で認知症の方への対応の仕方を学びました。

次に「更別村で認知症の方が安心して暮らすためには何が必要か」についてグループワークをし、生徒からいろいろな考えが出ていました。最後に、杖・車椅子の体験、介護食のための食器を見学しました。



グループワーク



「ふるさと更別の小麦」をテーマにした学習 第2弾は 栄養教諭から学ぶ

更別中央中1年生は、7月に小麦をテーマに岡田さん、更別農業高校から学びました。次に8月25日、重松栄養教諭から小麦粉の種類や用途、更別村の小麦の生産量や作付け面積、地産地消の考え方を教えていただきました。

「更別村の食料自給率は6800%。更別村はスマート農業も推進している日本を代表する大規模農業地域。自分が住んでいる地域に誇りをもって。」というお話もしてくれました。



日本の食糧自給率は38%、小麦だけでいうと16%だけです。世界の中で戦争や食糧危機が起きると、日本に食料が入ってこなくなるかもしれません。自給率を上げることが大事。